

## 原のきつねつり



絵：野口宣友

ては火事だ！」と大あわてで、若者たちは村へと駆け戻りましたが、村はしんと静まりかえっています。「おかしいなあ。」と言いつつ、また小屋まで戻ってみると、焼きねずみは影も形もなく、狐もいなくなっていました。若者たちは悔しがり、今度こそと次の晩も狐を待ちました。

なかなか狐は現れず、だんだんと退屈になってくると、おこづから大きな白狐が歩いてくるではありませんか。狐は昨夜と同じように、罾の周りを回ったり来たりするだけです。

若者たちがじりじりしていると、また半鐘の音がします。「今夜はだまされんぞ！」と若者たちは半鐘がいくら鳴ってもその場を動きませんでした。

すると今度は、火事場で騒ぐ人々の声が聞こえだし、竹が焼かれて割れる音まで聞こえてきます。「今夜は本当の火事だかね！」と気が気ではなく、とうとう村へと駆け出すと、夜空まで赤く染まっています。

村へ駆け戻ると、先ほどの騒ぎが嘘のように村は静まりかえっています。「狐の方が一枚上手だったな。」と若者たちは大笑いしました。

きつねつりが狐に釣られた、大國、原地区のお話でした。

おしまい

昔むかし、ある村で、飼っている鶏がとられてしまう事件が起こりました。犯人はどつやら狐ではないかと話し合った村の若者たちは、このままではいけないと、狐の大好物「焼きねずみ」を作って鶏小屋の前に罾を仕掛けて、息を殺して狐が現れるのを待ちました。

夜もふけましたが、狐はなかなか現れず、ついウトウトとしていると、なにやら音がします。

月明かりをたよりに罾の方を見てみると、親子7、8匹の狐が罾のまわりを回っていますが、えさに食いつこうとはいたしません。

若者たちがしびれをきらししていると、「ジャンジャンカンカン」と半鐘の音が村の方から響いてきます。「き

## 鳥取グリコ株式会社



鳥取グリコ株式会社は、グリオアーモンドチョコレートの製造拠点として昭和50年に南部町(旧西伯町)に開設され、現在はカレールウを中心に、シチュー、チョコレートビスケットなどの江崎グリコ製品を製造しています。正社員40名に、パート、派遣社員等を含めて約150人がここで働いており、ほとんどが南部町と米子市から通勤しています。

鳥取グリコ株式会社では、麒麟獅子や荒神神楽、鳥取砂丘などの鳥取県の伝統文化や風景をあしらった箱に、同社で製造されている商品(熟カレー3種、シチュー、ハッシュドビーフ)を詰め合わせた贈答用セット「鳥取からの贈りもの」を作成しています。これは、一般販売はされていませんが、鳥取県庁でお土産として採用され、国内外にPRされています。社長の内屋さんは、「南部町に工場があるということを活かして、地域の特色を活かした、鳥取グリコならではの商品を開発したいと考えています。」と話しておられました。

### 鳥取グリコ株式会社



所在地	南部町倭256
設立	昭和50年9月